

# 安倍政権 医療・介護・年金・生活保護などをバツリ切り捨て

## あらゆる社会保障制度を改悪する「プログラム法案」を強行

あらゆる分野の社会保障を切り捨てる「社会保障制度改革プログラム法案」が今国会に提案され、すでに11月15日の衆議院厚生労働委員会で採決が強行され、自民・公明の賛成で可決しました。

十分な審議も尽くさず、反対を押し切り強行することは許されません。

この法案は、医療・年金・介護など、社会保障のあらゆる制度を切り捨てるものです。

### プログラム法案の内容

＜医療＞ 2014～17年度めどに実施

- ・70～74歳の窓口負担1割を2割に
- ・患者負担上限額や入院食費の引き上げ

＜介護＞ 2015年度をめどに実施

- ・要支援1・2認定者を保険から外す
- ・利用料1割を2割に(一定所得以上)
- ・特養ホーム入所を要介護3以上に

＜年金＞13年10月から15年4月

- ・2.5%削減、支給開始年齢引き上げ

＜保育＞新制度導入、株式会社参入

## 生活保護改悪の先取り、不当な「親族調査」を熊本市でも実施

全国各地の自治体で、生活保護を申請した人の親族に対し、親族の援助が保護受給の要件であるかのように書いた書類を送りつけ、申請者を生活保護制度から締め出している実態が明らかになりました。

日本共産党の小池晃参議院議員の国会での追及に、厚生労働大臣が「(親族の扶養は保護の)前提ではない。きちんと指導する」と答弁し、11月8日付で、是正を求める通知が出されました。

熊本市でも、同様の調査書類を扶養親族に送りつけ、調査をしていました。熊本市が使っている調査書類では、「経済的援助ができない理由」に加え、「扶養親族の世帯の状況(職業・勤務先・平均月収・固定資産・借金の有無など)」まで記入するようになっています。保護を申請すると、親族の家計やプライバシーまでが調査されるようになっており、取り下げへとつながります。通知への速やかな対応が求められます。

## 生活保護 「水際作戦」を止め、必要な人が受けられる制度に

親族扶養前提の調査書使用はじめ、申請者を締め出す「水際作戦」、熊本市でも保護課窓口での相談件数に対し、申請は約7割です。切羽詰まり相談した人のうち1,000人以上が何らかの理由で申請を断念しています。

【2012年度】 相談 3,562件  
申請 2,528件

現在、国会で審議されている生活保護法の改悪案は、親族の扶養義務や就労指導をさらに強化するなど、必要とする人をますます追い出すものです。改悪を許さず、憲法25条に明記された国民の生存権の保障こそ、求められています。

(控室から) 「地方自治」の本質に立ち返る時  
なまよじか

先日、弁護士竹内重年先生による「住民監査請求の意義と役割」と題する講演を聞く機会がありました。明治憲法と違い、現在の憲法ではわざわざ章を設け「地方自治」が明記されています。「地方自治」には、住民自らの意思に基づいて政治が行われなければならないという「住民自治」が不可欠で、この原則を踏み外した政治は許されません。

また、住民自身も、自らの意思や願いが反映された市政となっっているのか、絶えず目を光らせる自覚が必要だと思えます。

現在、市中心部の花畑地区において、産業文化会館を解体し、広場を整備するというのが熊本市の方針に対し、20億円の税金の支出は不当であるとして、差し止めを求める住民監査請求の取り組みが市民によって進められています。

年金削減や所得減、高い税や保険料の負担など、大変な暮らしが強いられています。こうしたなか、市街地の広場ではなく、暮らしや福祉に税金を使ってほしい。率直な住民の意思や願いが込められた住民監査請求は、まさしく「住民自治」を具現化しようとする意義ある行動だと思います。

多くの市民に知らせながら、取り組みが広がるよう私自身も力を尽くしたいと思えます。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団  
ますだ牧子 上野みえこ なすまどか  
熊本市手取本町1-1 議会棟3階

NO. 876  
2013年11月24号  
電話 328-2656  
FAX 359-5047

メール: kumamsu@gamma.ocn.ne.jp  
ホーム: http://www.jcp-kumamoto.com/



## 議会活性化特別委員会視察報告(千葉・新潟市議会)～益田牧子 「市民説明会」「議会報告会」など市民参加に努力

議会活性化特別委員会では、定数・議員報酬・政務活動費のあり方が検討されています。11月13日、14日千葉・新潟市議会を視察しました。

両議会ともに、議員定数等の検討だけでなく、市民の意見を聴取する努力と実践が行われていました。千葉市議会は、「市民に身近な千葉市議会」をめざし、「議会のあり方」検討協議会報告と意見交換会を市民に議場を開放し、実施していました。新潟市議会では、議会基本条例を制定し、「市民に信頼され市民に開かれた議会」をめざし、全議員が各区に班編成し、年2回「議会報告会」を開催していました。視察を通して、熊本市議会として、議員定数については、「削減ありき」でなく、民意を反映できるものにする事や、同時に、「市民参加・開かれた議会運営」について改善するべきだと思いました。

### 千葉市議会の「議員定数」などの取り組み

千葉市議会では、議員定数での意見交換や勉強会が開催され、現54人を基に、検討されていました。現在、各党から定数が示され、来年の9月議会までに結論を得るとのことですが、参考になる議員意見を紹介します。

\*住民意見を効果的にくみ取るにはどの程度の人数が必要かとの視点から定数を考えるべき

\*定数減により、選挙に強い人だけが議員になると、行政に対するチェックが機能するか疑問である。格差是正は必要だが、定数削減ありきでなく、定数増も検討するべき

\*常任委員会方式に基づいて定数を検討するべき



新潟県議会旧議事堂政記念館  
1882年(明治15)8月着工、良く3月落成。文明開化期の代表的な洋風建築。明治の府県会開設期における現存する唯一の議事堂として、国の重要文化財に指定

## やまびこ福祉会 30周年 おめでとうございます



やまびこ福祉会の利用者による  
感動的な歌声が披露されました。

11月16日、やまびこ福祉会30周年の記念式典が、関係者の参加で開催され、松岡徹県議と市議団も参加しました。

旧西消防署2階からスタートし、新屋敷の旧失対休憩室を経て、今では、大江に自社ビルを建てるまでに成長・発展しています。リヤカーを引いて廃品回収をして資金集めをした障害児を抱えるお母さん、お父さんなど先駆者の努力。その後も、粘り強く、福祉法人化を実現し、事業拡大に取り組んでこられた関係者の努力に頭が下がりました。

私たち党市議団も、故澤田一郎議員を先頭に、市と交渉し、作業所を確保し、市単独の補助金を実現するなど、微力ながら力を尽くしてきました。

特に、故山本あやさんを事務局長に、やまびこ作業所の皆さん等と署名運動に取り組み、障がい者・高齢者・被爆者の無料パス券・さくらカードを実現。プリペイドによる有料化に反対し、ついに「おでかけパス券」を実現したことなども良い思い出です。